



株式会社大塚カラー

<https://www.o-color.com/>

本社：栃木県鹿沼市深津854-5

☎0289-76-1016

営業所：茨城、群馬、宇都宮、多摩

創業：1952年(昭和27年)

代表取締役社長：大塚康弘

ホームページURL



専務取締役
引地 靖氏

市場環境の変化に合わせて 事業内容や設備をアジャスト

大量の小ロットジョブをRMGT 9の瞬発性で一気に処理

今日と全く同じ明日が来ることはない。世界も経営環境も市場動向も日々変化し続けている。企業が力強く成長するためには、変化の兆しを察知し、適切に舵取りをすることが必要だ。昨年10月、A全判4色コーター付印刷機「RMGT 940ST-4+CC+IR+PQS-D(I+C+R)」(以下、RMGT 9)を導入した株式会社大塚カラーも、社会の変化に対応して変貌を遂げた会社のひとつ。

そして今、さらなる市場環境の変化にアジャストしていくための武器として、この新しい印刷機を駆使している。

同

社は元々、写真フィルムの現像・プリントを主業務とする会社で、DPEショップの全国展開をしていた。しかし1990年代後半、デジタルカメラの普及とともに写真フィルムの現像・プリントの需要が減少することを敏感に察知。新規事業として印刷分野、とくに写真の撮影や取り扱いと親和性の高い、

卒業アルバムの製作へと事業の軸足をシフトさせた。現在も地元である栃木県および近県を中心とした学校の卒業アルバム製作をメインの営業品目としており、地域の写真館や社内カメラマンが各学校で撮影し、編集・印刷・製本までの一貫生産体制を敷いている。そのほかにも、記念誌や広報誌、一般企業の商

業印刷も手掛ける。さらに、学校行事で撮影したスナップ写真を父兄がWebで購入できるシステムを開発し、学校および児童の父兄から好評を博している。

卒業アルバムの市場規模は子どもの出生数の変化を見ることで将来予測を立てることができる。日本国内では深刻な少子化が進んでおり、その影響は当然同社にも及んでいる。自社を取り巻く状況について引地靖専務取締役は「少子化の影響から学校の統廃合が毎年のようにあり、また1学年あたりの人数、すなわち卒業アルバムを製作するロット部数も



RMGT 940ST-4+CC+IR+PQS-D (I+C+R)



RMGTを扱う
オペレータの皆さん

毎年どんどん少なくなっている。そのような中、これまで使ってきた菊全判の枚葉オフセット印刷機が稼働開始から20年を超え、メンテナンスや小ロット運用などの点でさまざまな問題を抱えていた」と語る。そこで同社では、印刷機の入替えを検討することにした。

ることから印刷量も小ロット化している。後加工工程は忙しいながらも対応できているが、印刷工程は印刷機の老朽化もあって、とくに迅速なジョブ替えを要する小ロット対応という点でかなり厳しい状況だった」と同社生産事業部印刷課の加藤浩和係長は振り返る。

生産事業部
印刷課係長
加藤 浩和 氏



卒業アルバム製作の繁忙期には1シフトで50ジョブの処理を目標としているが、以前の印刷機だと実際には40ジョブに満たない仕事しかこなせず、時間外労働で対応していた。これは、ジョブ替えするたびに手作業での刷版交換や経験に基づいた色合わせ作業を要していたため、小ロット物だと本刷り時間よりもジョブ替え作業の方が圧倒的に長くなってしまふからだ。そこで、このような少子化にとまらぬ小ロット化という市場環境の変化を的確に捉えて対応すべく、生産の瞬発性があるジョブ数を稼ぐことができるような小ロット対応・自動化機能に富んだ印刷機として、RMGT 9への入れ替えを決めた。加藤係長は「刷版交換作業が早くて楽になったことに加え、なんと言っても色合わせ作業の迅速化により、実生産性がかなり向上した。色校正はPOD機で出力しているがそれとRMGT 9のカラーマネジメントも取れており、PQS-Dの効果もあって見当もすぐに合うので刷り出し時の損紙もとても少なくて済む。昨年度末の繁忙期はまだ印刷機の扱いに不慣れな点もあったので生産性は従来比で1.2倍程だったが、今年度末の繁忙期には1.4倍に達すると見込んでいます。また、印刷工程の生産性向上によって後加工工程の待ち時間もなくなってフローが円滑化するので、工場全体の生産性はそれ以上に高まるだろう」とRMGT 9のパフォーマンスを評価している。

A全判ジャストサイズでコスト減

極小ロット～大ロットがこの1台で

RMGT 9導入の効果は印刷工程の生産性向上だけにとどまらず、経営面でも大きく貢献している。「繁忙期には1日に400版もの量を消費する。これまでは菊全判機だったがRMGT 9は仕事をする上でジャストサイズなA全判機なので、刷版コストの削減にもつながる。また、納期対応のために印刷オペレーターが時間外労働することも激減した。さらに、これまでの印刷機では技術・ノウハウを若手スタッフに教育・伝承することが難しかったが、数値管理や自動化機能を備えてユーザーフレンドリーなRMGT 9だとそれも容易になる」と引地専務はその効果を表す。続けて「生産の瞬発力や小ロット対応という点でインクジェット印刷機も検討の俎上に載せたが、メンテナンス代やインク代といったランニングコストの高さから見送った。極小ロットの卒業アルバムの仕事、ロットが比較的大きい広報誌や商業印刷物の仕事、双方を柔軟にこなせるRMGT 9が最適だ」と述べた。

少子化による小ロット化という市場環境の変化に、的確な設備投資によって対応した。さらなる少子化を見越した、RMGT 9を活かした今後の展開について引地専務は、「当社は写真を中心として育ってきた会社なので、写真を見る目やきれいに表現する品質には自信がある。そこで、美術・芸術関連の印刷物製作に進出していきたい。また、現在は商品のパッケージデザインもしているが、このRMGT 9は紙厚0.6mmまでに対応するので、その汎用性の高さを活かしてパッケージ印刷までカバーしつつ、さらにはWeb制作・コンテンツ制作、そして顧客全体のブランディング構築まで踏み込んでいきたい」と今日とは違う明日の事業を展望している。

ロットが大きい広報誌や商業印刷物の仕事もRMGT 9で柔軟に対応



1シフトで50ジョブを目標に運用

自動化機能により生産性が1.4倍に

同社では卒業アルバム製作に特化した生産ラインを構築しており、一般的な製本機のみならず、本文を貼り合わせる全糊機、アルバムにリッチな加飾を施すための箔押し機、布表紙にも対応し、さらには児童の一人ひとりが描いた絵をそのまま表紙にできる表紙貼り機など、充実した後加工設備を数多く取り揃えている。このような充実した設備を揃えているのは、卒業アルバム製作ならではの特殊性があるからだ。「卒業アルバムの製作は、卒業式がある年度末に向けて仕事が一気に集中する。そして、卒業生の人数が少なくなっている



さまざまな後加工設備